

# Notes on the Hochschild homology dimension and truncated cycles

板垣 智洋 (東京理科大学) \*

本講演の内容は眞田克典氏との共同研究 [7] に基づいている。本講演では、2 以上の整数  $m$  に対して、 $m$ -truncated cycle をもつある多元環のクラスのホッホシルトホモロジー次元が無大であることを示す。

定義 1. 可換環  $K$  上の多元環  $A$  に対して、以下の複体  $C(A)$  を  $A$  の Hochschild complex という。

$$C(A) : \cdots \xrightarrow{b} A^{\otimes(n+1)} \xrightarrow{b} \cdots \xrightarrow{b} A^{\otimes 2} \xrightarrow{b} A \rightarrow 0.$$

ただし、 $\otimes$  は  $\otimes_K$  を表し、 $b: A^{\otimes(n+1)} \rightarrow A^{\otimes n}$  は以下で与えられる：

$$b(x_0 \otimes x_1 \otimes \cdots \otimes x_n) = \sum_{i=0}^{n-1} (-1)^i x_0 \otimes \cdots \otimes x_i x_{i+1} \otimes \cdots \otimes x_n \\ + (-1)^n x_n x_0 \otimes x_1 \otimes \cdots \otimes x_n.$$

可換環  $K$  上の多元環  $A$  の  $n$  次ホッホシルトホモロジー群は  $HH_n(A) = H_n(C(A))$  で定義される。

特に、 $K$  上の多元環  $A$  が  $K$  上 projective なとき、 $HH_n(A) \cong \text{Tor}_n^{A^e}(A, A)$  である。ただし、 $A^e$  は  $A$  の包絡多元環  $A \otimes A^{\text{op}}$  を表す。また、 $A$  の  $n$  次ホッホシルトコホモロジー群は  $HH^n(A) = \text{Ext}_A^n(A, A)$  で定義される。

1989 年、Happel[6] は有限次元多元環のホッホシルトコホモロジーについて、その高次のホッホシルトコホモロジー群がすべて 0 であれば、大域次元が有限であるかということを問題提起した。後に Happel's question と呼ばれ、2005 年に Buchweitz, Green, Madsen, Solberg[2] によって反例が挙げられ、否定的に解決された。2006 年、Han[5] はホッホシルトホモロジー次元  $\text{HHdim } A = \sup\{n \in \mathbb{Z} \mid HH_n(A) \neq 0\}$  を用いて Happel's question のホモロジー版を予想し、monomial algebra に対して肯定的に解決している。

Bergh, Han, Madsen[3] は多元環のクイバーの組み合わせに着目して、この予想にアプローチしている。具体的には、以下で定義される  $m$ -truncated cycle を導入し、2-truncated cycle をもつ多元環のホッホシルトホモロジー次元が無大であることを示している。結果として、大域次元

---

\* Email: j1112701@ed.tus.ac.jp

が有限な有限次元多元環が 2-truncated cycle を持たないことを示している。さらに、この主張が  $m$ -truncated cycle に対しても成り立つのではないかと予想し、monomial algebra に対しては肯定的に解決している。

**定義 2** ([3]).  $K$  を可換環,  $m$  を 2 以上の整数とし,  $Q$  を有限クイバーとする. Bound quiver algebra  $KQ/I$  に対して,  $\alpha_1\alpha_2\dots\alpha_u$  が cycle となる矢の列  $\alpha_1, \alpha_2, \dots, \alpha_u$  で, 全ての  $i(1 \leq i \leq u)$  に対して

$$\alpha_i \cdots \alpha_{i+m-1} = 0, \quad \alpha_i \cdots \alpha_{i+m-2} \neq 0 \quad \text{in } KQ/I$$

を満たすものを  $m$ -truncated cycle という. ただし  $\alpha$  の添え字は  $u$  を法としている.

$K$  を可換環とし,  $Q$  を有限クイバーとする.  $R_Q$  を  $KQ$  の arrow ideal とする.  $Q_n$  を長さ  $n$  の path 全体の集合,  $Q_n^c$  を長さ  $n$  の cycle 全体の集合とすると, 位数  $n$  の巡回群  $G_n = \langle t_n \rangle$  の  $Q_n^c$  上の作用が  $t_n(\alpha_1 \otimes \alpha_2 \cdots \alpha_n) = \alpha_n \alpha_1 \cdots \alpha_{n-1}$  で与えられる. Cycle  $\gamma$  に対して,  $\text{per } \gamma$  を  $\gamma = \delta^r$  を満たす  $\delta$  の長さで最小なものとする.

Sköldbberg[8] は可換環  $K$  上の truncated quiver algebra  $KQ/R_Q^m$  について, その射影分解を与え, ホッホシルトホモロジーの加群構造を決定している. 各ホッホシルトホモロジー群の生成元を具体的に表示すると, 以下の補題が得られる.

**補題 3** ([7]).  $K$  を体とし,  $A$  を truncated quiver algebra  $KQ/R_Q^m$  とする.  $\bar{\gamma} \in Q_{cm}^c/G_{cm}$  ( $\gamma = \alpha_1 \cdots \alpha_{cm}$ ,  $\alpha_1, \dots, \alpha_{cm} \in Q_1$ ) に対して, 以下は non-zero homology class に一致する:

$$\alpha_{(c-1)m+i+1} \cdots \alpha_{cm} \alpha_1 \cdots \alpha_{i-1} \otimes \alpha_i \cdots \alpha_{(c-1)m+i} \in A \otimes_{KQ_0^c} \Gamma^{((c-1)m+1)}.$$

ただし,  $i = 1, 2, \dots, \text{gcd}(m, \text{per } \bar{\gamma}) - 1$  で  $\Gamma^{(i)}$  は

$$\Gamma^{(i)} = \begin{cases} Q_{cm} & \text{if } i = 2c \ (c \geq 0), \\ Q_{cm+1} & \text{if } i = 2c + 1 \ (c \geq 0) \end{cases}$$

で与えられる. また,  $\text{per } \bar{\gamma} = \text{per } \gamma$  とする.

**補題 4** ([7]).  $K$  を体とし,  $A$  を truncated quiver algebra  $KQ/R_Q^m$  とする.  $\bar{\gamma} \in Q_{cm+e}^c/G_{cm+e}$  ( $1 \leq e \leq m-1$ ,  $\gamma = \alpha_1 \cdots \alpha_{cm+e}$ ,  $\alpha_1, \dots, \alpha_{cm+e} \in Q_1$ ) に対して, 以下は non-zero homology class に一致する:

$$\alpha_{cm+1} \cdots \alpha_{cm+e} \otimes \alpha_1 \cdots \alpha_{cm} \in A \otimes_{KQ_0^c} \Gamma^{(cm)}.$$

これらの補題と Ames, Cagliero, Tirao[1] によって与えられている truncated quiver algebra の Sköldbberg による射影分解 [8] と Cibils による射影分解 [4] の間の chain map を用いて,  $m$ -truncated cycle をもつある多元環のクラスのホッホシルトホモロジー次元が無限大であることを示す.

以下が主結果である.

**定理 5** ([7]).  $K$  を体,  $Q$  を有限クイバー,  $I \subset KQ$  を  $R_Q^m$  に含まれるイデアルとする.  $KQ/I$  が  $m$ -truncated cycle  $\alpha_1, \dots, \alpha_u$  を含むとする. このとき, 次が成り立つ:

(i)  $\gcd(m, \text{per}(\alpha_1 \cdots \alpha_u)) \neq 1$  を仮定する.  $un \equiv 0 \pmod{m}$  を満たす  $n \geq 1$  に対して, 元

$$\begin{aligned} & \alpha_{(c-1)m+2} \cdots \alpha_{cm} \otimes \alpha_1 \otimes \alpha_2 \cdots \alpha_m \otimes \alpha_{m+1} \\ & \otimes \alpha_{m+2} \cdots \alpha_{2m} \otimes \alpha_{2m+1} \otimes \cdots \otimes \alpha_{(c-2)m+2} \cdots \alpha_{(c-1)m} \otimes \alpha_{(c-1)m+1} \end{aligned}$$

は  $HH_{2c-1}(KQ/I)$  で 0 でない. ここで  $c = un/m$  とする.

(ii)  $e$  を  $1 \leq e \leq m-1$  である整数とする.  $un \equiv e \pmod{m}$  を満たす  $n \geq 1$  に対して, 元

$$\begin{aligned} & \sum_{0 \leq j_1, \dots, j_c \leq m-2} \alpha_{2c+1+j_1+\dots+j_c} \cdots \alpha_{un} \\ & \otimes \alpha_1 \cdots \alpha_{1+j_1} \otimes \alpha_{2+j_1} \otimes \alpha_{3+j_1} \cdots \alpha_{3+j_1+j_2} \otimes \alpha_{4+j_1+j_2} \otimes \cdots \\ & \otimes \alpha_{2c-1+j_1+\dots+j_{c-1}} \cdots \alpha_{2c-1+j_1+\dots+j_c} \otimes \alpha_{2c+j_1+\dots+j_c} \end{aligned}$$

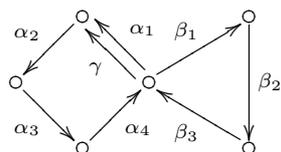
は  $HH_{2c}(KQ/I)$  で 0 でない. ここで  $c = (un - e)/m$  とする.

特に  $\text{HHdim}(KQ/I) = \infty$  である.

系として以下を得た.

**系 6** ([7]).  $K$  を体とし,  $Q$  を有限クイバー,  $I$  を  $R_Q^m$  に含まれる  $KQ$  の *admissible ideal* とする. 多元環  $KQ/I$  が有限の大域次元を持つとき,  $Q$  は  $m$ -truncated cycles を持たない.

**例 7** ([7]). 以下のクイバー  $Q$  とイデアル  $I$  で定まる bound quiver algebra  $KQ/I$  を考える:



$$\begin{aligned} \alpha_i \alpha_{i+1} \alpha_{i+2} &= \beta_1 \beta_2 \beta_3 = \beta_3 \gamma \alpha_2 = 0, \\ \beta_2 \beta_3 \alpha_1 &= \beta_2 \beta_3 \gamma, \end{aligned}$$

$$I = \langle \alpha_i \alpha_{i+1} \alpha_{i+2}, \beta_1 \beta_2 \beta_3, \beta_3 \gamma \alpha_2, \beta_2 \beta_3 \alpha_1 - \beta_2 \beta_3 \gamma \rangle \quad (1 \leq i \leq 4).$$

ただし,  $\alpha$  の添え字は 4 を法とする. このとき,  $R_Q^6 \subset I \subset R_Q^3$  で,  $KQ/I$  は 3-truncated cycle  $\alpha_1, \alpha_2, \alpha_3, \alpha_4$  をもつ. したがって,  $\text{HHdim} KQ/I = \infty$ . ゆえに,  $KQ/I$  の大域次元は無限大である.

## 参考文献

- [1] G. Ames, L. Cagliero and P. Tirao, *Comparison morphisms and the Hochschild cohomology ring of truncated quiver algebras*, J. Algebra 322(5)(2009), 1466–1497.
- [2] R.-O. Buchweitz, E. Green, D. Madsen and Ø. Solberg, *Finite Hochschild cohomology without finite global dimension*, Math. Res. Lett. 12 (2005), no. 5-6, 805–816.

- [3] P.A. Bergh, Y. Han and D. Madsen, *Hochschild homology and truncated cycles*, Proc. Amer. Math. Soc. (2012), no. 4, 1133–1139.
- [4] C. Cibils, *Cohomology of incidence algebras and simplicial complexes*, J. Pure Appl. Algebra 56(3) (1989), 221–232.
- [5] Y. Han, *Hochschild (co)homology dimension*, J. Lond. Math. Soc. (2) 73 (2006), no. 3, 657–668.
- [6] D. Happel, *Hochschild cohomology of finite-dimensional algebras*, in *Séminaire d'Algèbre Paul Dubreil et Marie-Paul Malliavin, 39ème Année (Paris, 1987/1988)*, Lecture Notes in Mathematics 1404, Springer, Berlin, 1989, 108–126.
- [7] T. Itagaki, K. Sanada, *Notes on the Hochschild homology dimension and truncated cycles*, Arch. Math. 103 (2014), 219–228.
- [8] E. Sköldberg, *The Hochschild homology of truncated and quadratic monomial algebras*, J. Lond. Math. Soc. (2) 59 (1999), no. 1, 76–86.